



2013  
九州電力CSRダイジェスト  
～今お伝えしたい、私たちの思い～



## 九州電力の思い

ずっと先まで、  
明るくしたい。

「快適で、そして環境にやさしい」  
そんな毎日を子どもたちの未来に  
つなげていきたい。  
それが、私たち九州電力の思いです。

## 目次 CONTENTS

経営理念・目次	1
編集方針	2
トップメッセージ	3
電気料金の値上げについてご説明します	5
節電へのご協力をお願いします	6
<b>特集</b>	
1 原子力発電所の安全・安心への取り組み	7
2 再生可能エネルギーの積極的な開発・導入	9
3 信頼再構築に向けた取り組み	11
社員の思いでつなぐ九州の電気	13

## CSRの取り組み

九州電力グループのCSR	15
1 社会とのコミュニケーションを大切にします	16
2 安全・安心を第一に考えます	17
3 地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します	18
4 環境にやさしい企業活動を目指します	19
5 人権を尊重し働きやすい職場をつくれます	20
6 コンプライアンス経営を推進します	21
CSR報告書2012アンケート結果	22
社外の方からの評価	23
九州電力グループのご紹介	25





# 編集方針

## CSRダイジェストは、お客さまとのコミュニケーションを深めるために発行しています

お客さまとのコミュニケーションツールとしてCSRダイジェスト2013を発行しました。

対話活動やアンケート等のコミュニケーションを通じて、お客さまからいただいた「声」を、当社グループの事業運営に反映させていきます。

## お客さまの関心や当社の重点取組みをもとに掲載項目を選定しています

巻頭で、お客さまにご負担をおかけしている「電気料金の値上げ」と「節電のお願い」についてご説明いたします。

また、当社が特にお伝えしたい「原子力発電所の安全・安心への取組み」「再生可能エネルギーの積極的な開発導入」「信頼再構築に向けた取組み」を特集として掲載しています。

CSRの様々な取組みについては、6つの重点項目に整理し、主なものを紹介しています。

## 学生の方々と意見交換を行うなど、読者の皆さまに“伝わる”冊子となるように心がけました

昨年の読者アンケートにおいて、「企業目線で書かれていて分かりにくい」などの声をいただきました。そのため、今回は作成過程で、大学でユーザー感性学を学ばれている学生の方々と数回にわたって意見交換を行うなど、“伝わる”冊子となるように心がけました。

(意見交換会の詳細については、P24をご覧ください)



意見交換会の様子

## CSR(Corporate Social Responsibility)とは…

「企業の社会的責任」と訳され、企業の事業活動が及ぼす、社会や環境への影響に対して、透明かつ倫理的な行動を通じて担う責任と説明されています。

企業は利益の追求のみならず、地球環境やお客さま、地域社会などのことにも配慮した事業活動を行う必要があるという考え方です。

## CSR報告書の種類

### 情報開示のための詳細報告

CSR報告書 [120ページ]

～今お伝えしたい、私たちの思い～

webのみ



### コミュニケーションツール

CSRダイジェスト [26ページ]

～今お伝えしたい、私たちの思い～

冊子・web



CSRブックレット [14ページ]

～九州の明るい未来のために～

小冊子・web



### 環境に関する詳細報告

環境アクションレポート (2013年8月上旬発行予定)

[九州電力 CSR]で検索してください

九州電力 CSR

検索



### 報告範囲

九州電力株式会社及びグループ会社

### 報告期間

2012年4月1日～2013年3月31日

(一部対象期間外の情報も掲載しています)

### 発行時期

2013年6月(前回：2012年9月/次回：2014年6月予定)

### □免責事項

本報告書には、九州電力株式会社及びグループ会社の過去と現在の事実だけでなく、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。

## お客さまの声に真摯にお応えし、信頼され選ばれる しなやかで強い九州電力を目指します。

「ずっと先まで、明るくしたい。」をブランドメッセージとする「九州電力の思い」のもと、責任あるエネルギー事業者として、安定した電力・エネルギーをお客さまにしっかりとお届けすることを使命に、事業活動を進めております。

こうした中、福島第一原子力発電所における深刻な事故を契機に、原子力発電の安全性などに対する信頼が大きく揺らぎ、当社におきましても、全ての原子力発電所が停止し、大変厳しい電力需給が続くとともに、収支・財務状況が急速に悪化してまいりました。

これらの事態に対処するため、お客さまからの節電への多大なご協力のもとに、需給両面において最大限の努力を行い、どうにか電力の安定供給を果たすとともに、数次にわたる緊急経営対策を実施し、収支の改善に努めてまいりました。

しかしながら、原子力に代替する火力燃料費等の増大は緊急経営対策によるコストの削減を大きく上回り、これ以上の財務の悪化は、電力の安定供給を困難にするとの判断に至ったことから、やむを得ず電気料金の値上げを実施させていただきました。具体的には、規制部門のお客さまにつきましては、本年5月1日から平均6.23%の値上げを、自由化部門のお客さまにつきましては、4月から順次、平均11.94%の値上げを実施しております。

お客さまには、大変厳しい経済情勢の折、多大なご

負担をお願いすることにつきまして、誠に心苦しく、深くお詫び申し上げます。

当社といたしましては、今後とも、徹底した経営の効率化と電力の安定供給に全力で取り組むとともに、原子力発電の安全性や電気料金などに対していただいたお客さまの声に真摯にお応えし、社会から信頼される企業を目指してまいります。

また、国のエネルギー政策の見直しや電力システム改革などの変化に的確に対応してまいります。

このような観点から、本年4月、今年度から2015年度までの3か年における経営の方向性と重点的な取り組みを「中期経営方針」として取りまとめました。今後、以下の課題に重点的に取り組んでまいります。

### 重点的な取り組み

お客さまの生活や企業活動、地域社会を支え、皆さまとともに持続的発展を目指すため、あらゆる面で徹底的な効率化を図ってまいります

厳しい収支状況が続くなか、一層の財務の悪化を回避するとともに、小売全面自由化など電力システム改革に的確に対応し、電気事業者としての責務を果たしていくため、グループ一体となったコスト管理と徹底した効率化に取り組んでまいります。それにより、安定的な取



支構造の実現を図り、お客さまをはじめとするステークホルダーの皆さまへの価値提供を果たしてまいります。

具体的には、需給関係費の削減に向け、卸電力市場を通じた安価な電力調達や、シェールガスの動向など燃料情勢を踏まえた経済的な燃料調達に取り組んでまいります。

また、安全・法令遵守・安定供給に関わるコストを検証し、競争原理に基づく資機材調達の拡大や業務全般にわたる効率化を進めることにより、設備投資や修繕費、諸経費などのより一層の削減に努めてまいります。

さらに、ビジネスパートナーと一体となった効率化の推進や技術力の維持向上、グループ会社の経営体質強化に取り組んでまいります。

### 大きく変化する環境下でも、お客さまに 良質で安定した電力をお届けしてまいります

全ての原子力発電所が停止し、厳しい需給状況が続く中、需給両面からあらゆる対策に取り組み、電力の安定供給に努めてまいります。

原子力発電につきましては、エネルギーセキュリティ面や地球温暖化対策の観点から、その重要性は変わらないと考えております。当社といたしましては、世界最高水準の安全性を目指し、原子力規制委員会が定める新規制基準への的確な対応はもとより、更なる安全性向上のための自主的な取組みを進めてまいります。併せて、地域の皆さまにご理解をいただく活動を積極的に行い、早期の再稼働に向け最大限努力してまいります。

当面の供給対策といたしましては、火力発電設備等の安全・安定運転を徹底するとともに、需給動向を踏まえた電力取引市場の活用など機動的に供給力を確保してまいります。

また、太陽光発電などの再生可能エネルギーにつきましては、グループ一体となって積極的に開発するとともに、大幅に増加しております連系申込みにも円滑に対応し、電力品質の維持にも努めてまいります。

一方、需要面の対策といたしましては、エネルギーの効率的利用に向けた料金メニューやサービスのご提案など、お客さまや地域と協働したピーク需要抑制や省エネルギーの推進、需給状況などに関する情報公開の充実などに取り組んでまいります。

さらに、各種電源の特性や将来の燃料動向などを踏

まえた最適な電源構成の検討や、電力システム改革を見据えた競争力のある電源確保に向けた検討を進めてまいります。

### 社会に開かれ、社会から信頼される企業を目指した 取組みを推進してまいります

ステークホルダーの皆さまからの信頼は、事業運営を行っていく上での基盤であり、信頼される企業を目指して、皆さまの声を業務運営に反映するとともに、より一層の企業活動の透明性向上などを通じて、CSR経営の徹底に努めてまいります。

具体的には、当社の取組みや電気事業に関する情報をより分かりやすくお伝えするとともに、お客さまをはじめとする皆さまの声を真摯にお聴きし、ご意見・ご要望を事業活動に適切に反映してまいります。

また、社外有識者などによる客観的・専門的な視点を取り入れた適切な業務運営を徹底するとともに、透明性が高く、お客さまの視線に立った社会貢献活動に取り組んでまいります。

当社といたしましては、電気事業に対する社会やお客さまの意識の変化への感度を高めて、これからの社会ニーズに新たな発想で臨機応変にチャレンジし、自ら変わっていくことで、お客さまから信頼され選ばれるしなやかで強い企業を目指してまいります。

### 皆さまの「声」をお聴かせください

当社では、2006年より「九州電力CSR報告書」を発行し、ステークホルダーの皆さまの「声」をお聴かせいただくとともに、お寄せいただいたご意見につきましては、今後の取組みに反映させ、更なる充実を図ってまいりました。

今回も、この報告書をステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションのツールとして、あらゆる機会を活用した対話活動を展開することにより、皆さまの「声」を経営に反映してまいりますので、どうぞ、忌憚のないご意見・ご要望を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年6月

九州電力株式会社  
代表取締役社長

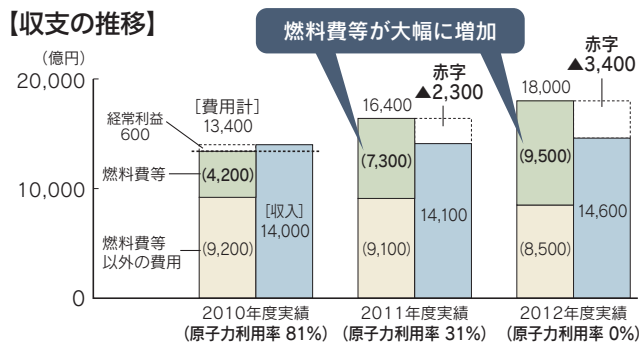
瓜生 道明

# 電気料金の値上げについてご説明します

## 原子力発電所の停止に伴う燃料費等の増加により、 財務状況が悪化したため、電気料金の値上げをさせていただきました

2012年度の収支状況は、緊急経営対策として1,750億円規模のコスト削減を実施したにもかかわらず、▲3,400億円の赤字となりました。

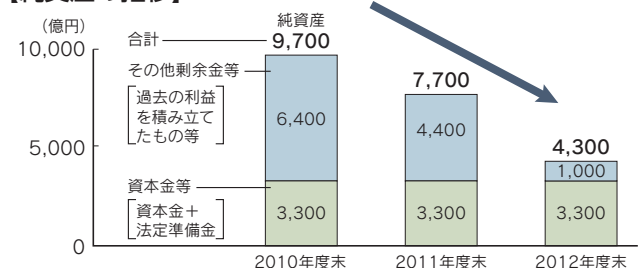
これに伴い、当社の財務状況は急速に悪化しており、このままでは、資金調達にも支障をきたし、当社の基本的使命である電力の安定供給が困難になるおそれもあったことから、やむを得ず、電気料金の値上げを実施させていただきました。



### 【電気料金の値上げの内容】

	(円/kWh)		
	新単価	旧単価	値上げ率
ご家庭や店舗など低圧[100V、200V]の電気をお使いのお客さま	21.14	19.90	6.23%
工場やビルなど高圧の電気をお使いのお客さま	14.49	12.94	11.94%

### 【純資産の推移】



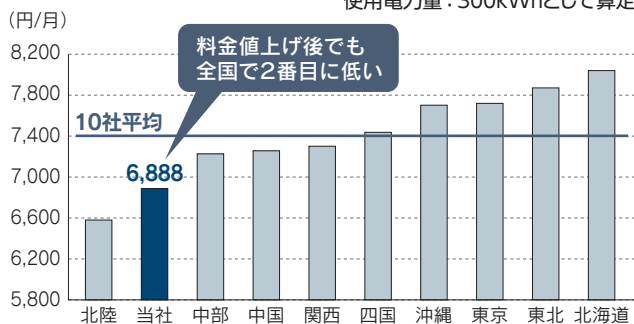
## 経営効率化に継続的に取り組み 全国的には低い料金水準を保っています

ご家庭向け電気料金については、2013年5月に値上げを実施させていただきましたが、徹底的な効率化を行うことで全国で2番目に低い料金水準を保つことができています。

引き続き、ステークホルダーの皆さまにご理解・ご協力をいただきながら、徹底した経営効率化に取り組んでいきます。

### 【ご家庭の電気料金の比較】

契約電流：30A、  
使用電力量：300kWhとして算定



※2012年7～9月の貿易統計価格に基づく燃料費調整額、消費税等相当額、再生可能エネルギー発電促進賦課金及び太陽光発電促進付加金を含む  
 ※関西・九州は認可料金、北海道・東北・四国は申請料金、北陸は2013年7月実施の届出料金で算定(2013年5月末現在)  
 ※東京・中部・北陸・関西・中国・四国・九州については、口座振替割引を含む

### 【料金原価に織り込んだ効率化の金額】

項目	2013～2015年度平均	主な取組み内容
人的経費	▲480億円	・役員報酬の削減 ・年収水準の引き下げ ・福利厚生の見直し ・健康保険の事業者負担割合の引下げ ・採用の抑制
需給関係費(燃料費など)	▲180億円	・燃料調達コストの低減 ・購入電力料のコスト削減
修繕費	▲320億円	・点検周期の延伸化 ・修繕工事の中止・繰延べ・規模縮小 ・競争発注の導入拡大
減価償却費(設備投資)	▲230億円	・設計基準、仕様の見直し ・工事中止・繰延べ・規模縮小
その他経費(諸経費など)	▲220億円	・業務委託範囲・内容の見直し ・普及開発関係費、団体費、研究費等の中止・繰延べ・規模縮小 ・競争発注の導入拡大
合計	▲1,400億円規模	

※なお、電気事業の運営に直接係わるもの以外の資産の売却(総額140億円以上)にも努めていきます。



# 節電へのご協力をお願いします

## お客さまの生活や健康、経済活動に支障がない範囲で可能な限り、節電にご協力ください

当社の電力需給は、2011年の夏以降、厳しい状況が続いており、お客さまには節電へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

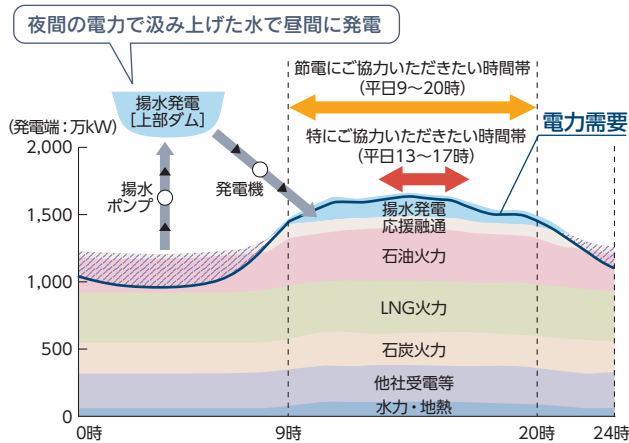
今夏におきましても、原子力発電所の再稼働がない場合は、厳しい需給状況となることが予想されます。お客さまの生活や健康、経済活動に支障がない範囲で可能な限り、節電にご協力いただきますようお願いいたします。

### 今夏の電力需給の見通し

(原子力発電所の再稼働がない場合)

- ◆ 既にお客さまに定着したと考えられる節電効果を織込み(▲149万kW: 昨夏の節電効果の約8割程度)
- ◆ 他電力会社からの応援融通(最大90万kW)などの、あらゆる供給力対策を織込み
- ➔ 電力の安定供給に最低限必要な予備力を何とか確保(予備率3%=でんき予報では使用率が97%)

### 【今夏における1日の電力需給のイメージ】



### 節電にご協力いただきたい期間

2013年7月1日(月)～9月30日(月)の平日  
[お盆期間 8月13日～8月15日を除く]

### 【ご家庭における節電の具体的事例】

お願いしたい事例		節電効果(削減率)
エアコン	◆ 無理のない範囲でエアコンを消し、扇風機を使用する	50%
	◆ 室温28℃を心がける ※設定温度を2℃上げた場合	10%
	◆ 「すだれ」や「よしず」などで窓からの日差しを和らげる ※エアコンの節電になります	10%
	[注意] 除湿運転やエアコンの頻繁なオンオフは、電力の増加になる場合がありますのでご注意ください	
照明	◆ 日中は不要な照明を消す	5%

- 効果の記載値は、在宅家庭の昼間ピーク時の消費電力(14時: 約1,200W)に対する削減率の目安です(資源エネルギー庁推計)。
- 上記のお願いしたい事例と節電効果については、経済産業省「夏季の節電メニュー(ご家庭の皆様)」から抜粋しています。

## 新たな料金メニューを設定しました

ピーク時間や昼間時間を割高に、夜間時間を割安にした、新たな料金メニュー「ピークシフト電灯」を設定しました。

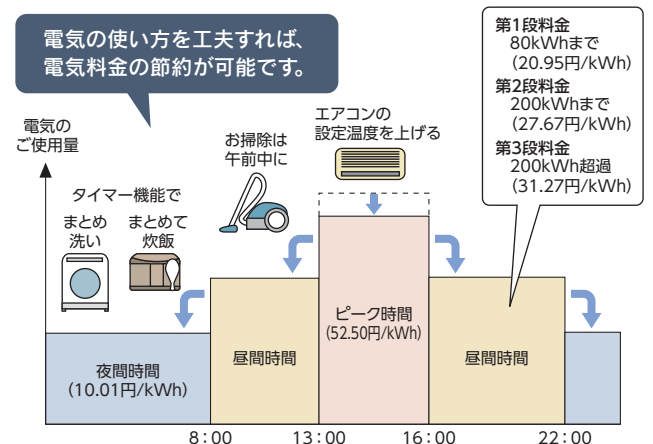
このほか、電気を使う時間帯で料金が変わる電気料金メニューをご用意しています。

ぜひご利用ください。

[電灯契約のお客さまのみ]

- ◆ 当社ホームページで、いろいろな電気料金メニューでのシミュレーションができるようになりました。
- ◆ お客さまの適正なアンペアがシミュレーションできるようになりました。  
[従量電灯B(契約種別:31)のお客さまのみ]

### 【ピークシフト電灯のイメージ図】(夏季[7/1～9/30]の場合)



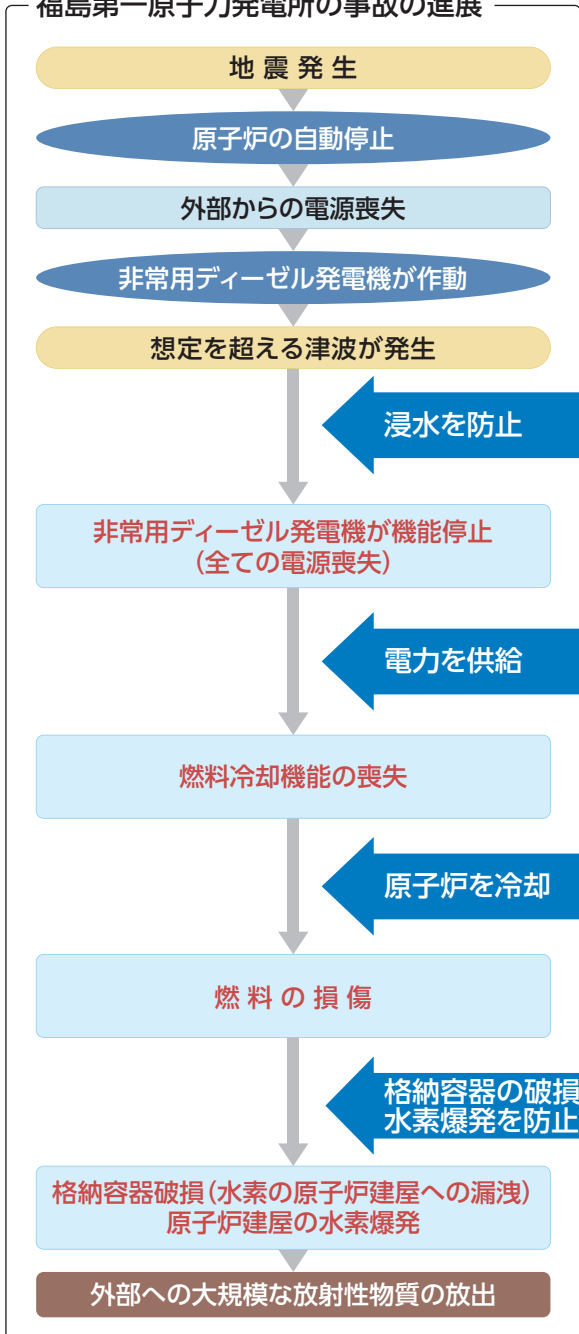
# 原子力発電所の安全・安心への取組み

## 福島第一原子力発電所の事故を教訓に 幾重もの安全対策を実施しています

当社は、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、原子力規制委員会が定める新規基準をクリアするのはもちろんのこと、自主的かつ継続的な対策を行い、世界最高水準の安全性を目指していきます。

当社の原子力発電所は、大きな津波が発生しにくい立地条件となっていますが、万一、津波等により事故が発生した場合でも、放射性物質が人や周辺環境に影響を及ぼさないよう、幾重もの対策により、事故の拡大を防止します。

### 福島第一原子力発電所の事故の進展



### 幾重もの安全対策による事故の拡大防止

#### もし 想定を超える巨大な津波が発生した場合でも

非常用ディーゼル発電機などの重要機器がある建物へは、水密扉\*などを設置し、浸水を防止する

\*「水密扉」…船舶などにも使用されている、水圧がかかっても浸水を防止できる扉



タービン動補助給水ポンプ室の水密扉

#### もし 非常用ディーゼル発電機が停止した場合でも

高圧発電機車、移動式大容量発電機など、様々な手段により、原子炉の冷却装置等に電力を供給する

移動式大容量発電機 ▶



#### もし 冷却装置が機能しなかった場合でも

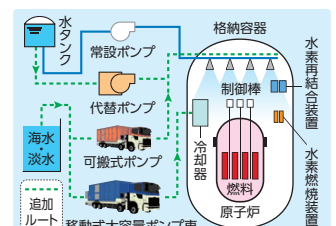
仮設ポンプや代替ポンプ、可搬式ポンプなど、様々な手段により、原子炉内部に水を注入し、原子炉を冷却する

仮設ポンプ ▶



#### もし 燃料が損傷した場合でも

格納容器の冷却・給水手段の追加や水素再結合装置の設置など、様々な手段により、格納容器内部の圧力抑制や、水素濃度の低減を行うことで、格納容器の破損や水素爆発を防止する



格納容器破損防止対策の概要

この他にも様々な安全対策を実施しています ▶ 詳しくは九州電力ホームページをご覧ください



# 原子力防災体制を強化し 住民のみなさまの安全・安心を確保します

## 原子力事業者防災業務計画を見直し 国や関係自治体との連携体制を強化しました

国・自治体・電力会社、それぞれの責任の明確化や原子力防災体制の見直しを図るため、2012年9月に原子力災害対策特別措置法が改正されました。

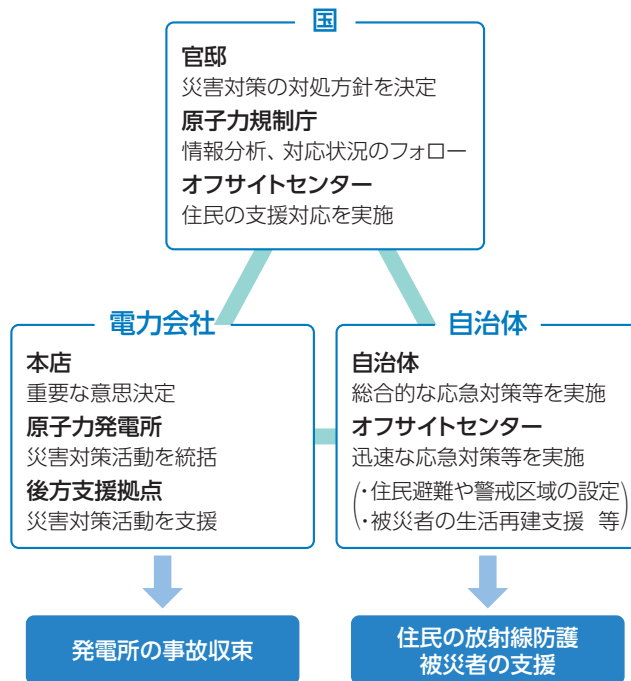
当社は、この法改正に伴い、2013年3月に原子力事業者防災業務計画を見直し、防災体制を強化しました。

また、周辺自治体からの要請に基づき、各自治体と協議を行いながら、原子力防災に関する新たな協定等の締結も行っているところです。

### 原子力事業者防災業務計画で拡充した内容

- ☑ 原子力発電所に「緊急時対策所」、本店に「原子力施設事態即応センター」を整備し、国の災害対策本部や関係自治体等との連携体制を確立
- ☑ 後方支援拠点を整備し、事故への対応力を向上
- ☑ 重大事故を想定した防災訓練の実施
- ☑ 原子力緊急事態支援組織（原子力レスキュー）の整備  
など

### 【原子力防災体制とそれぞれの役割】



## 災害時の対応能力の習熟を図るため、 様々な状況を想定した訓練を実施しています



移動式大容量発電機を使った  
電源供給訓練



仮設ポンプ・ホースを使った  
原子炉等を冷却するための  
給水訓練



災害時における  
社内外の関係箇所への  
通報連絡訓練



災害時の放射線等を測定する  
環境モニタリング訓練

福島第一原子力発電所の事故を教訓に、発電所近くの住民の皆さまに安心していただけるよう、「安全最優先」を念頭に、向上すべきことを提案するなど、率先して業務に取り組んでいます。

現在、発電所の再稼働に向け、発電所運転の冷却機能に必要な取水路設備の点検や、保守工事の調査・設計など、新しい規制基準に基づいた対応工事を実施しています。

今後も、技術力や専門知識を向上させながら、引き続き、安全第一と品質管理に万全を図り、皆さまから信頼される川内原子力発電所を目指していきます。

住民の方々に安心していただけるよう  
安全性向上に万全を尽くしています。



九州電力 **社員**の思い

川内原子力発電所 土木建築課  
すやま かずもり  
陶山 和盛

# 再生可能エネルギーの積極的な開発・導入

## グループ一体となって再生可能エネルギーの開発に積極的に取り組んでいます

㈱キューデン・エコソルは、当社大村発電所跡地を利用し、2013年に出力13,500kWの大村メガソーラー発電所の営業運転を開始しました。また、当社旧相浦発電所跡地においても、出力10,000kWの佐世保メガソーラー発電所(長崎県佐世保市)の開発を進めており、2013年度末に営業運転を開始する予定です。

また、串間ウインドヒル㈱では、宮崎県串間市において、60,000kW級の風力発電所の開発を計画しており、現在、環境影響評価を行っています。



大村メガソーラー発電所(長崎県大村市)

## 急速に普及拡大が進む太陽光発電などを円滑に受入れています

全国の再生可能エネルギーのうち、当社は太陽光：約20%、風力：約15%を占めており、九州地域の経済規模(全国の約10%)と比較しても導入が進んでいます。

2012年7月に固定価格買取制度\*が開始されましたが、九州は他地域と比べて太陽光発電に適していることから、太陽光発電設備の導入量が急速に増加しています。

このため、2020年度の太陽光・風力の導入量は700万kWまで拡大する見通しです。

また、急速に普及拡大が進む太陽光発電などの申込みに対して電気の品質を維持しつつ、円滑に受入れています。

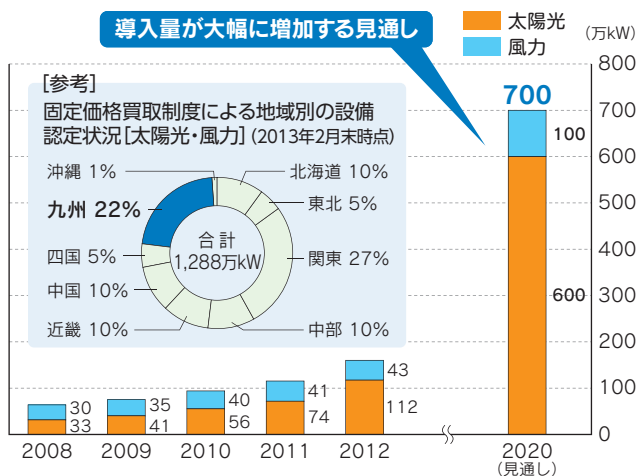
### ※「固定価格買取制度」とは

再生可能エネルギーで発電された電気を、電力会社が国の定める価格で一定期間買取、その費用を電気のご使用量に応じて、お客さまにご負担いただく制度

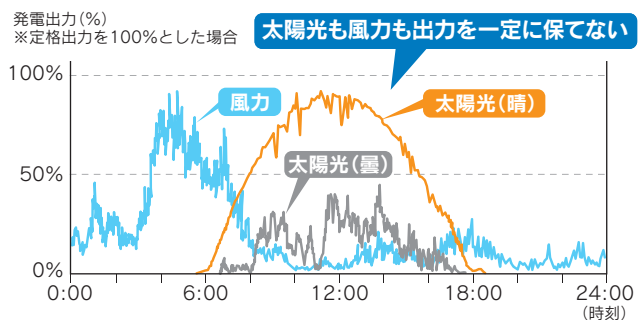
### しかし、発電出力が天候などに左右されるため、全てを供給力として見込むのは困難です

太陽光や風力は、発電出力が天候や季節、風向きなどに大きく左右されるため、年間の平均利用率は約10%~20%と低く、700万kW全てが供給力と見込めるわけではありません。また、このような発電出力の変動に即時に対応し、電気の質を保つためには、他の発電設備の出力をコントロールするなどの技術的な対策や代替となる電源が必要不可欠です。

### 【太陽光・風力の設備導入量の推移と見通し】



### 【太陽光と風力の1日の発電出力の変動(イメージ)】



### 参考：発電出力の大きさを比較するためにお使いください (P26：主要供給設備もご覧ください)

- 一般家庭の平均的な契約アンペア=30アンペア → 3kW
- 大村メガソーラー発電所 → 13,500kW
- 九州最大規模の長島風力発電所 → 50,400kW

- 日本最大規模の八丁原地熱発電所 → 112,000kW
- 当社で一番総出力が低い火力発電所(松浦発電所) → 700,000kW
- 川内原子力発電所(1、2号機合わせて) → 1,780,000kW



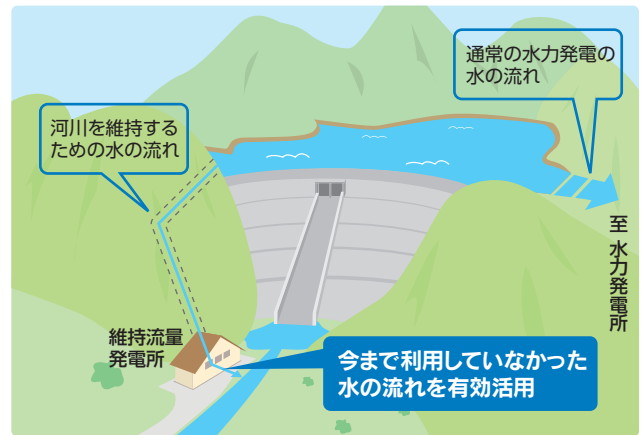
## 今まで利用していなかった水の流れを有効活用した発電を行っています

水力発電所では、河川を維持するために必要な水量を、常に下流へ放流しています。当社は、今まで利用していなかった、この水の流れを活用した小水力発電所の開発を行っています。

2013年3月に上椎葉維持流量発電所(宮崎県椎葉村、出力330kW)の営業運転を開始し、年間の発電電力量は一般家庭約600世帯の1年分相当を見込んでいます。

また、2012年5月に着工した一ツ瀬維持流量発電所(宮崎県西都市、出力330kW)も、2013年10月の営業運転開始を目指しています。

【維持流量発電所の概要】



## 九州の貴重な地熱資源を効率的に活用しています

当社は、これまで地熱開発に積極的に取り組み、全国の約40%を占める21.2万kWの発電設備を有しています。

2013年2月には、山川発電所(鹿児島県指宿市)において、川崎重工業(株)と共同で小規模地熱バイナリー発電\*(出力: 250kW)の実証試験を開始しました。

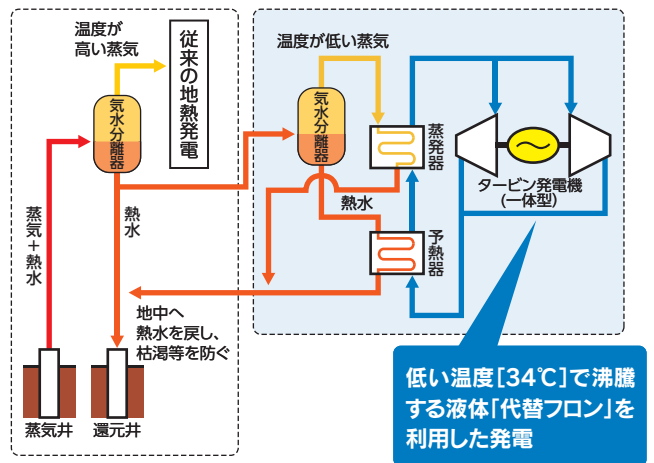
また、大岳発電所(大分県九重町、出力: 12,500kW)では、2019年を目途に老朽化した発電設備の更新を計画しており、2,000kW程度の出力増加を見込んでいます。

なお、2013年7月に地熱センターを設置し、新たな地熱開発に積極的に取り組むなど、今後とも、地域のみならず、みなさまのご協力のもと、九州の貴重な地熱資源を有効に活用していきます。

※「地熱バイナリー発電」とは

これまで利用できなかった温度の低い(80~100℃)熱水を利用したもの。「バイナリー」とは「2つの」という意味で、2つの熱サイクルによる発電という意味

【バイナリー発電のしくみ(山川発電所の例)】



水力発電は、ダムや河川の水が持つエネルギーを活用した、環境にやさしい再生可能エネルギーです。私が所属する水力開発事務所は、水力発電所の開発調査や建設業務を担当しています。

開発を進めるにあたっては、河川流域の自治体や住民の方々のご理解が不可欠ですので、皆さまとの対話を通じ、信頼関係を築いています。

今後もお客さまのニーズに迅速かつ丁寧に対応しつつ、技術力の向上にも努めながら、地域に根ざした水力発電所の開発を更に充実させていきたいと思っています。

河川流域のみならず、みなさまとの対話を重ねながら九州の水力エネルギーを最大限に活用していきます。



九州電力 社員の思い

とみおか たかひと  
水力開発事務所 開発第2グループ 福岡 孝仁

## あらゆる機会を捉えた「お客さま対話活動」を全社で展開しています

2012年から、「お客さまとの対話の会」を九州内の各支社エリアで開催しており、消費者団体やNPOの方々など様々な立場からご出席いただきました。

また、節電の御礼や電気料金の値上げに関するご説明などのあらゆる機会を捉えた「お客さま対話活動」を全社で展開し、当社事業活動への厳しいご意見やご要望を数多くいただくことができました。

この対話活動でいただいた、お客さまからの貴重な「声」を大切に、経営層を含む全社員が共有し、当社の事業活動に反映していくことこそが、信頼再構築のために必要不可欠だと考えています。(関連記事:P16下、P22下)

【「お客さま対話活動」の実績：2012年度】

実施方法	回数・人数
当社がお招きして実施	38回 約530名
各種団体の例会・会合等に 参加させていただき実施	209回 約5,400名
個別にご訪問し対話を実施	(延べ)約109,600名

### 信頼再構築の取組みに関する主なご意見

- ◆対話を通じた議論により、疑問が解消され、信頼回復に繋がる
- ◆社外の意見に真摯に取り組む姿勢を見せて欲しい
- ◆透明性の高い情報公開活動を地道に続ける以外には信頼回復はありえない など

## 社外有識者からの点検や助言により 原子力の業務運営に関する透明性を向上させています

原子力の業務運営に関して、社外有識者の方々から、客観的に専門的立場から点検や助言をいただく「原子力の業務運営に係る点検・助言委員会」を2012年9月に設置し、これまでに、委員会を3回、当社原子力発電所の視察を1回行いました。

各委員からは、全社での更なる安全追求や、地域の皆さまの視点でのわかりやすい説明などについて、助言をいただきました。

今後も、定期的に行い、業務運営の透明性向上を図っていきます。また、活動状況については、当社のホームページ上で随時公開しています。



原子力の業務運営に係る点検・助言委員会

### 委員会での主なご意見

- ◆原子力推進ではなく客観的な立場でコミュニケーションをしたほうが良い
- ◆地域防災では、住民視点に鑑みて必要となる情報を発信して欲しい など

## 社会環境の変化に対する感度を高めるための研修を実施しています

厳しい経営環境や社会の変化に対応していくため、本店の部長や発電所長などを対象に、意識改革や行動変革を促す研修を実施しました。

また、グループ長や管理職への就任者等に対しては、求められる責任や役割を認識させるとともに、コンプライアンス等の意識付けを行う研修を継続的に実施し、マネジメント力や自己革新力の向上を図っています。

【研修の実績：2012年度】

研修名	受講者数
経営幹部研修	60
新任グループ長(課長)研修	107
新任管理職研修	205
マネジメント力養成プログラム	545
合計	917

## 組織横断的な意見交換や対話を重ね 組織風土の改革を推進しています

### 経営トップ層と社員の対話を拡充し、 少人数での対話を新たに導入しました

風通しの良い組織風土づくりを目的に、従来から「経営トップ層と社員との対話」を実施しています。社員と経営トップ層が、より双方向の対話ができるよう、2012年度からは少人数での対話（スモールミーティング）を新たに導入しました。

この対話では、経営課題や日頃の課題認識について活発な意見交換を行っており、その結果を業務運営に反映させています。

2012年度は、計108事業所で実施し、約6,000名の社員が参加しました。



社長と社員の対話（スモールミーティング）の様子

### 会社を変えていくための 約1,000件ものアイデアが寄せられました

2011年度から、様々な役職や部門の社員による組織横断的な意見交換を全社で実施しています。当社の組織風土の課題について振り返り、「何を変えていかなければならないか」等について、互いの立場を越えた活発な意見を交わしました。

参加者からは、会社を変えていくための約1,000件ものアイデアが寄せられ、新しい九州電力を模索する貴重な場となりました。



熊本支社での意見交換会の様子

これらの結果を踏まえ、2013年度からは、「新しい九州電力の再構築」に向け、全社一体となって、組織風土改革と業務改革に取り組んでいきます。

#### 意見交換会での意見

- ◆お客さまの生の声が共有され、社員全員が同じ方向を向いて進んでいきたい
- ◆社会やお客さまに真の意味で役に立つ会社になりたいなど

「当社の企業体質や組織風土に改善すべき点はないのか」、大分支社エリアでは、前向きに自らを振り返る機会として、エリア内の全事業所で階層別のワークショップ形式で意見交換会を実施しました。

その結果、明らかとなった課題に対して、各職場が「他人ゴト」ではなく「自分ゴト」として捉え、自律的な改善活動を展開しています。

私自身も、職場でのリーダーシップを発揮し、お客さまや地域の皆さまに「九電は変わった」と、1日でも早く実感していただけるよう、今後も更に士気を高め、行動していきます。

「九電は変わった」とお客さまに実感していただけるよう  
組織風土改革にチャレンジしていきます。



九州電力 **社員**の思い

大分支社 企画・総務部 企画グループ **あだち たくや**  
**足立 卓也**



# 社員の思いでつなぐ 九州の電気

私たちは「ずっと先まで、明るくしたい。」という九州電力の思いのもと、社員一人ひとりが何としてでも電気を安定的にお届けするという“思い”で、日々、業務に取り組んでいます。

LNG (液化天然ガス) を海外から安定的かつ経済的に調達すべく、売主と厳しい交渉の

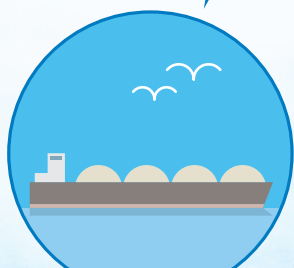
上、購入契約を結び、基地での受入、貯蔵、発電所への払い出しまでを担っています。

震災以降はLNGの需要が急増しており、10年以上の長期契約に加え、アフリカや南米などからスポットで追加調達を行っています。

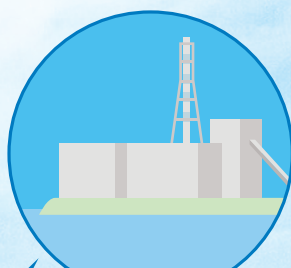
刻々と変動する市況の見極めや最適なタイミングでの受入等、難しい判断もありますが、「このLNGが電気に変わり、お客さまのもとへ届く」という使命感のもと、やりがいを感じながら業務に取り組んでいます。

**「このLNGが電気に姿を変えて、お客さまに届く」  
その使命感を持って、海外からLNGを調達しています。**

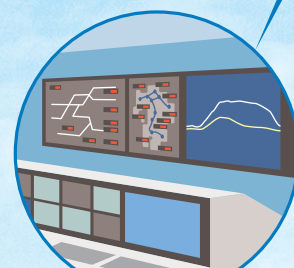
国際事業本部  
LNGグループ  
ひらい あきこ  
平居 亜希子



タンカー・石炭船  
海外から燃料を輸入



火力発電所  
燃料で電気をつくる



中央給電指令所  
電気の流れをコントロール

私の業務の1つに保修業務があります。それは、発電設備のパトロール等で発見される不具合箇所の修理を行うものです。



**たとえ小さな不具合であっても、  
迅速かつ的確に1つずつ対応していくことで、  
大きなトラブルの未然防止に繋がっています。**

新小倉発電所では、昨年の電力需給が逼迫した時期に緊急停止してしまいましたが、日々の適切かつ迅速な保修対応が、大きなトラブルの未然防止に繋がると考えています。

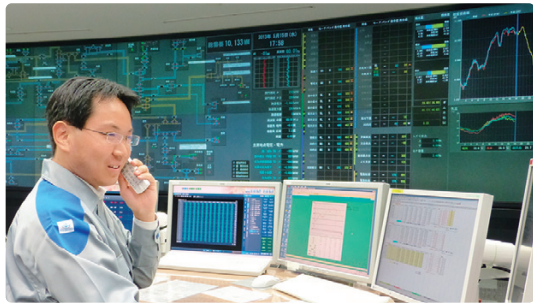
1件の保修対応にも、原因究明や修理方法の検討、工事の発注等、必要なプロセスは少なくありませんが、「地道に1つずつ小さな不具合をなくしていく」という思いで、これからも緊張感を持って日々の業務に取り組んでいきます。

新小倉発電所 保修グループ  
さめしま ともあき  
鮫島 友章





お客さまに安心して電気を使っていただくことを常に考えながら、時々刻々と変化する電力需要に対応しています。



私が勤務する中央給電指令所では、お客さまが使用される電気の量に応じて、発電所の出力を調整する業務を行っています。

電気は貯めておくことができないため、常に需要と供給のバランスをとる必要があります。そのため、中央給電指令所では、九州全体の電気の状況を24時間監視し、天候や気温の変化に応じて効率的な電源構成を考え、運用を行っています。

深夜の勤務や設備トラブル時の対応など、大変な面もありますが、「安定した電気をお客さまにお届けする」という使命を果たすため、責任とやりがいを感じながら勤務しています。

電力輸送本部 中央給電指令所 だいだい りょうた  
運用グループ 橙 良太

私は、福岡都市圏に電力を供給する地中ケーブルの設備保全及び改修工事を担当しています。

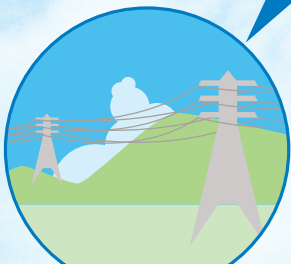
ケーブルは、道路の地下に埋設されているため、作業のほとんどが夜間に行われ、安全性確保にも細心の注意を払いながら行っています。また、ケーブルの経年劣化が進んでいるため、年間約500箇所を対象に、定期的な劣化診断を行い、設備の健全性を確保しています。

設備の保全にあたっては、これまで培ってきた技術力をフルに発揮し、高経年化したケーブルを有効活用しつつ、如何にして電力の安定供給とコスト低減を両立していくかを常に考え、業務改善に取り組んでいます。



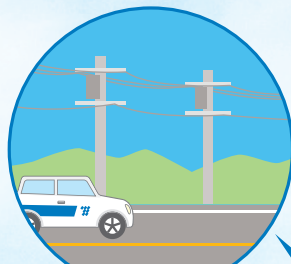
福岡電力センター  
地中送電グループ  
のりむら なおき  
法村 直樹

福岡の道路の下に眠る膨大な地中ケーブル。  
電力の安定供給とコスト低減の両立に取り組んでいます。



送電線・鉄塔

大きな電気を送る



配電線・電柱

九州の隅々まで電気を届ける



九州のまち

九州北部豪雨災害においては、河川の氾濫や土砂災害、倒木が多数発生し、八女市内を中心に各地で大規模な停電が発生しました。

山間部では、道路の多くの箇所が遮断されるなど、復旧作業は困難をきわめました。孤立した被害現場へは、作業員が崩れた道路脇や川の中を、復旧機材を担いで歩くなど、関係者一丸となって懸命に取り組みました。

「被災された方々へ一刻も早く電気を届けたい」という強い思いを当社社員だけでなく、協力会社のみなさまからも感じる事ができ、これこそが私たちの使命なのだと思えて感じました。

「被災された方々へ一刻も早く電気を届けたい」  
これこそが協力会社のみなさんも含めた  
私たちの使命です。

福岡お客さまセンター 業務運営部  
(当時は八女営業所 配電技術グループ)

こだま ゆうじ  
児玉 祐治



# 九州電力グループのCSR

私たちは、安全を最優先に電気を安定的かつ効率的にお客さまにお届けし続けることが、基本的使命であり、最大の社会的責任であるとの認識のもと、CSRに取り組んでいます。

九州電力グループでは、CSRの基本となる重点項目として、以下の6つのテーマで、様々な取り組みを実施しています。

6つの重点項目	主な取り組み内容
 <p><b>1 社会とのコミュニケーションを大切にします</b> (16ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• お客さまや社会の安心感・信頼感につながる広聴・広報活動の推進</li><li>• 非常災害時・緊急時における広報対応の充実</li><li>• 原子力関係情報の迅速・的確な発信</li><li>• 株主・投資家のニーズを踏まえたIR活動の推進</li></ul>
 <p><b>2 安全・安心を第一に考えます</b> (17ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 原子力発電所の安全性確保</li><li>• 電気工作物の保安確保</li><li>• 作業災害防止対策の推進</li><li>• 心身両面における健康管理の推進</li><li>• 公衆災害の未然防止</li></ul>
 <p><b>3 地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します</b> (18ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• エネルギーや環境をテーマとした次世代層育成支援</li><li>• ボランティア活動の一層の活性化に向けた環境づくり</li><li>• 事業活動を通じた地域・社会の持続的発展への貢献</li></ul>
 <p><b>4 環境にやさしい企業活動を目指します</b> (19ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 地球環境問題への取り組み</li><li>• 循環型社会形成への取り組み</li><li>• 地域環境の保全</li><li>• 社会との協調</li><li>• 環境管理の推進</li></ul>
 <p><b>5 人権を尊重し働きやすい職場をつくりま</b> (20ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 教育・研修等を通じた人権尊重意識の向上</li><li>• 働きがいのある生き活きとした職場づくりの推進</li><li>• 多様な人材の活躍環境の整備</li><li>• 従業員の能力向上と技術力の維持継承</li></ul>
 <p><b>6 コンプライアンス経営を推進します</b> (21ページ)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 教育・研修等を通じたコンプライアンス意識の向上</li><li>• 法務支援の充実による法令違反リスクの低減</li><li>• 情報セキュリティ・個人情報保護管理の徹底</li></ul>

詳しい情報は当社ホームページに掲載しています

九州電力 CSR

検索







# 社会とのコミュニケーションを大切にします

## 当社ホームページや記者会見等を通じて、積極的に情報発信を行っています

当社の事業活動全般に関する様々な情報を、当社ホームページに掲載し、積極的に情報発信を行っています。2012年度は、お客さまの関心が高い、電気料金の値上げや原子力などに関する詳しい情報を適時掲載しました。

社長の記者会見や記者発表等では、発表資料に図表を用いるなど、分かりやすさを意識して発信するとともに、社長記者会見の動画をホームページ上で公開しています。

このほか、報道機関や地域の方々を対象とした現場公開や説明会などを、積極的に行っています。

### 【記者会見や報道機関を対象とした現場公開等の実績】

2012年度実績		
記者会見	12回	・社長記者会見 ・電気事業連合会での記者会見
記者発表	306件	—
現場公開	11回	・新小倉発電所5号機補修状況 ・需給ひっ迫時対応訓練 など
見学会	8回	・天山発電所見学会 など
説明会	3回	・電力系統の概要と需要想定について など

## お客さまの声を大切にした事業運営を行っています

当社は、お客さまや社会からのご理解と信頼を得るため、迅速かつ確かな情報発信を行うとともに、お客さまの声を大切にした事業運営を行っています。

従来から、いろいろな形でお客さまの声を頂戴していますが、2012年度は節電のお願いや電気料金の値上げのご説明など、これまで以上にお客さまと接する機会が多く、社員一人ひとりが、多くのお客さまとつながりを作ることができました。

今後も、このつながりを大切にしつつ、お客さまから頂戴する、貴重なご意見をしっかりと受け止め、事業活動の改善とお客さまとの信頼関係の構築に努めていきます。

(関連記事：P11上、P22下)

### 2012年度にいただいた「声」の実績

お便りBOX(ホームページを通じて頂いた「声」)	3,954件
レインボーシステム(窓口やお電話で頂いた「声」)	2,895件

#### 改善事例(抜粋)

電気料金値上げに伴い、料金メニュー別の試算がしたい

➡ 「ご契約メニュー比較シミュレーション」をホームページ上に新設

毎日、計画停電があるのかどうか分かりにくい

➡ マスコミ各社に依頼し、日々のでんき予報や計画停電の有無についてテレビや新聞でお知らせ

電気料金値上げのお願いにあたっては、訪問活動を通じてお客さまの実情を拝見し、直接お話を伺う機会が格段と増え、多くのお客さまとの新たなつながりのきっかけができました。

ご説明の度に、更なるご負担をお願いすることへの心苦しさを感じますが、そのような中でも多くのお客さまから激励のお言葉や「気づき」をいただくと、改めて私たちはお客さまに支えられているということを実感します。

今後も頂いた「気づき」に対する改善を忘れずに、このご縁を大切に、お客さまに寄り添ったご提案を続けていきたいと思ひます。

訪問活動を通じたお客さまとのご縁を大切に  
お一人おひとりに寄り添った  
ご提案を続けていきたいと思ひます。



九州電力 社員の思い

唐津営業所 営業グループ さがら はるか  
相良 遥加



# 安全・安心を第一に考えます

## 「災害ゼロの達成」に向けて 協力会社と一体となって取り組んでいます

2012年度の社員による業務上災害は40件、委託・請負先災害は29件発生し、近年増加傾向であることから、現場における安全作業の徹底を図っています。

社員に対しては、労働安全衛生法令に関する教育や、危険感受性を高めるための危険体感研修等の安全教育を計画的に実施しています。

このほか、協力会社に対しては、作業員一人ひとりの安全を確保するために、安全パトロールを実施するなど、災害の未然防止や再発防止に努めています。



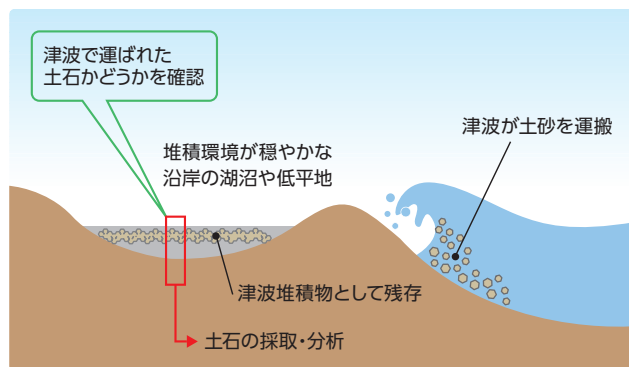
現場作業の安全状況を確認する安全パトロール(人吉変電所)

## 津波の堆積物調査も実施し 発電所等に対する安全・安心を高めていきます

九州の西岸では、過去に津波が発生したという文献もなく、地震の発生メカニズムからも大きな地震は発生しにくいと考えられてきました。

これまでの文献調査では約2千年前までのデータしか得られなかったことから、九州西岸における津波に関するデータの拡充を図るために、当社独自の取組みとして、津波堆積物調査を実施することとしました。

今回の調査では、2013年度から約3年をかけて、九州西岸の10数か所において土石の採取・分析を行い、約7千年前\*までの津波の有無を調査することとしています。



津波堆積物調査のイメージ

\*約7千年前より昔の時代は、現在よりも海面が低く、その時代の津波堆積物は現在の沿岸部には残存しにくい

「安全と健康は、すべてに優先する」との考えのもと、熊本支社エリアでは、社員一丸となって「指差し呼称」や「コメントリー運転\*」などの確実な実施によって業務上災害等の発生防止に取り組んでいます。

私は、安全への取組みには特効薬はなく、協力会社まで含めた作業員一人ひとりが、安全諸施策を愚直に継続する必要があると感じています。そのためにも、社員に対しては定期的に安全教育を実施し、協力会社のみなさんに対しては安全パトロールを行うなど、作業員一人ひとりの安全に対する意識を更に高めていきたいと思っています。

\*コメントリー運転…道路や交通の状況を、声を出し安全確認を行いながら車を運転する方法

安全への取組みに特効薬はない。  
作業員一人ひとりの高い安全意識が必要不可欠です。



熊本支社 人事労務部 池田 まさはる  
労務安全グループ 池田 正治

九州電力 社員の思い



# 地域と協働してよりよい社会づくりに貢献します

## ボランティア活動を積極的に推進しています

従業員が積極的にボランティア活動に取り組めるよう、意識啓発やボランティア休暇制度の整備、社内掲示板での情報提供などの環境づくりを行っています。

2012年度は延べ3万人を超える従業員がボランティア活動に参加しました。

今後とも、社会に開かれ、社会から信頼される企業を目指し、ボランティアなど社員の顔が見える活動をこれまで以上に、積極的に推進していきます。



九州北部豪雨災害での土砂のかき出し作業 (竹田市)

## 業務の特性を活かし、地域の皆さまの安心・安全を見守っています

近年の一人暮らしの高齢者の増加に伴い、地域一体となって高齢者を支えるネットワークが九州各地で構築されており、当社も多くの事業所が積極的に参加しています。

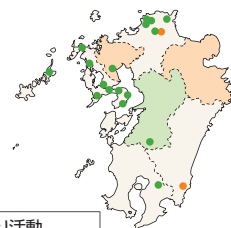
当社は検針等のために、毎月、定期的にお客さま宅を訪問しています。このような業務の特性を活かし、お客さま訪問時に高齢者の異変や周辺の状況変化に気づいた場合は、各自治体や民生委員等とのネットワークにより連携を図ることで、高齢者をはじめとした地域の皆さまの安心・安全を見守っています。

### 【高齢者等の見守り活動】

福岡県	北九州市、飯塚市、福津市、古賀市、宗像市
佐賀県	嬉野市
長崎県	長崎市、島原市、雲仙市、平戸市、佐世保市、大村市、諫早市、南島原市、新上五島町
熊本県	熊本県、人吉市
鹿児島県	曾於市

### 【防犯、安全・安心の見守り活動】

福岡県田川市、佐賀県、大分県、宮崎県日南市



● 高齢者等の見守り活動  
● 防犯、安全・安心の見守り活動

北九州市では、支援が必要と思われる方を社会から孤立させないために、「いのちをつなぐネットワーク事業」という地域連携の取組みを行っており、当社も参画しています。

私たちの職場では、現場でお客さまの異変等に気づいた場合は適切な対応をするよう、社員はもちろん料金委託員にも伝えていました。

先般、現場を訪問した際、血を流して倒れているお客さまを発見したため、応急処置を行い、救急車を手配しました。

今回の救助では、地域の役に立てた喜びと責任の大きさを実感しましたが、当社の事業が地域と共にあることを胸に刻み、今後も住みよい社会を築く一翼を担っていきたくと思っています。

倒れているお客さまを救助することができ、地域の役に立てた喜びを感じた一方、責任の大きさを実感しました。



小倉営業所  
料金委託員

しらかわ  
白川 俊彦

小倉営業所  
料金運営グループ

しん のぶひで  
新 庸秀

九州電力 社員の思い





# 環境にやさしい企業活動を目指します

## 「九州ふるさとの森づくり」として九州各地で植樹や育林活動を実施しています

「九州ふるさとの森づくり」は、当社創立50周年を記念して、2001年度から取り組んでいる植樹・育林(下草刈)活動であり、低炭素社会実現への寄与や生物多様性の保全を目的として、九州各地で展開しています。

2012年度は、約5千名の皆さまのご協力により、36か所で約2万1千本の植樹や育林活動を実施しました。

なお、これまでの12年間で約117万本を植樹し、延べ約14万1千名の方々にご参加いただきました。



「みんなで創ろうーツ葉の森林」植樹祭(宮崎市)

## 電気の供給面と使用面の両面からCO<sub>2</sub>の排出抑制に努めています

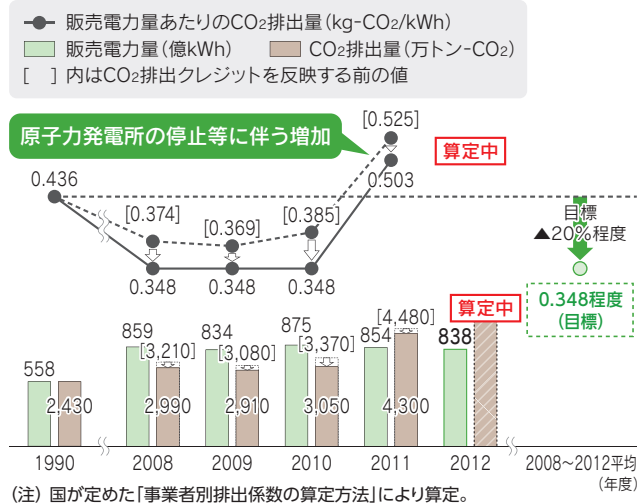
当社は、安全の確保を前提とした原子力発電の活用、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入、火力発電の熱効率の維持・向上、及び当社自らの節電・省エネ活動の徹底など、電気の供給面と使用面の両面からCO<sub>2</sub>の排出抑制に努めています。

2012年度の販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量は現在算定中のため、算定が終わり次第、速やかに当社ホームページ等でお知らせします(7月末頃)。

### CO<sub>2</sub>排出抑制目標

2008~2012年度平均の販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量を1990年度実績比で20%程度低減(0.348kg-CO<sub>2</sub>/kWh程度にまで低減)

### 【CO<sub>2</sub>排出量、販売電力量あたりのCO<sub>2</sub>排出量】



熊本支社では、県内各地において、12年間で15万7千本の植樹を行ってきました。

植樹活動は、家族で楽しく環境について学ぶことのできる絶好の場です。毎年、地域の多くの子供たちに参加いただき、「立派な森に育ちますように」と願いを込めながら、一本一本丁寧に植樹を行います。その中で、参加者同士が協力し合い、笑顔あふれる活動となっています。

みなさんの願いが込められた苗木が森となり、みなさんの笑顔があふれる瞬間に、喜びややりがいを感じています。今後も、地域のみなさんと、環境保全活動に取り組んでいきたいと思ひます。

## 「立派な森に育ちますように」みんなの願いが込められた植樹活動を行っています。



九州電力 社員の思い

熊本支社 企画・総務部 やまぐち みほ  
企画総務グループ 山口 美穂(写真中央)



# 人権を尊重し働きやすい職場をつくります

## 障がいを持つ学生の就業体験を行っています

㈱九電ビジネスフロントでは、障がいを持つ学生を対象に、将来の自立に向けた職業観を身につけていただくことを目的に、就業体験を受け入れています。

2012年度は、福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校の2年生と約1週間、一緒に働かせていただきました。事前に社員が手話を覚えておき、学生とのコミュニケーションを積極的に行ったことなどを通じて、聴覚障がいを持つ方と一緒に働く際に必要な心配りについて、気づききっかけとなりました。



筆談によるコミュニケーション

## 多様な人材が活躍できる職場環境を整備しています

従業員一人ひとりが、性別や年齢などに関わらず、働きがいや生きがいをもって仕事ができる、活力あふれる企業を目指しています。

女性の活躍推進や高齢者の雇用環境の充実、障がい者の雇用促進などのほか、従業員が仕事と家庭を両立しやすい職場環境づくりの推進にも取り組んでいます。

近年では、少子高齢化に伴い、子育てだけでなく、介護支援に関する従業員のニーズも高まっており、より柔軟に対応できるよう充実策を引き続き検討していきます。

### 【多様な人材の活躍に関する取組み(例)】

多様な人材が活躍できるための意識改革や風土醸成に向けた社内への情報発信を行うほか、以下のような取組みを行っています

#### 〈女性の活躍推進〉

- ◆女性のキャリア形成支援のための各種懇談会の開催
- ◆女性の部下を持つ管理職を対象とした説明会の開催
- ◆仕事と家庭の両立支援セミナーの開催

#### 〈高齢者の雇用環境の充実〉

- ◆雇用上限年齢を65歳まで引き上げ(シニア社員制度の導入)
- ◆キャリアデザイン(働き方)セミナーの実施

#### 〈育児・介護支援制度〉

- ◆育児や介護のための休職や休暇、短縮勤務制度
- ◆配偶者の出産時における休暇制度

約1年半の育児休職を2回取得し、現在は育児短縮勤務とフレックス勤務を併用して働いています。職場の温かい理解と協力により、仕事にも家事と育児にも集中できる充実した毎日を送ることができています。

仕事にも育児にも更にやりがいを感じる事ができるよう、時間を効率的に使うことを常に考えながら、努力していきたいと思っています。

人材活性化本部 ダイバーシティ推進グループ

いしい ゆか  
石井 祐香

九州電力 社員の思い

## 夫婦間での会話を大切に、仕事や家事、育児に集中できる充実した毎日を送っています。

夫婦ともに仕事と育児を両立していくために、仕事の状況や子どもたちの状況を常に話し合い、共有することが必要と感じています。共有することで、お互いの状況に応じた柔軟な対応をとることができると思います。

そのためにも、職場において上長やグループメンバーとコミュニケーションを取り、育児にも参加できる環境を整えておくことが重要だと思います。



業務本部付  
九州通信ネットワーク㈱ 出向  
いしい のぶよし  
石井 信義



# コンプライアンス経営を推進します

## コンプライアンス※に関する教育を強化しています

支社エリア内の教育・研修等の役割を担うコンプライアンス担当職位を設置するなど、職場研修を中心とした従業員教育を強化しています。

各職場での研修は、社会情勢の変化に対する感度の重要性を認識し、従業員一人ひとりがコンプライアンス意識を高められるよう、具体的な事例を使ったグループ討議を中心に実施しています。

また、グループ会社に対しても、コンプライアンス意識の向上に向けた研修を実施するとともに、各社のコンプライアンス教育推進者の養成を図るなど、グループ一体となって教育・研修を推進しています。

※「コンプライアンス」とは

法律や規則、企業倫理などを守り、社会に損失を与えないこと。また、社会から求められる期待に応えること

### 【コンプライアンス研修の実績(2012年度)】

項目	実績
職場研修	8,402名
階層別研修及びテーマ別研修	1,792名(延べ)
グループ会社向けの研修	CSR研修 32社 290名 コンプライアンス 教育推進者研修 37社 41名

## 社会情勢の変化に対応するため コンプライアンス行動指針を適宜見直しています

判断に迷ったときの行動基準や、お客さまや株主・投資家などステークホルダーとの関係における留意点などを具体的に記載した「コンプライアンス行動指針」を全役員及び全従業員に配布しています。

コンプライアンスは社会情勢の変化に柔軟に対応していくことが重要であることから、社外有識者が出席するコンプライアンス委員会での意見を踏まえ、適宜、見直しを行っています。2013年1月には、ツイッターやブログなど、ソーシャルメディアに関する企業不祥事の増加を受け、利用時の注意喚起を目的に見直しを行いました。

### コンプライアンス行動指針の見直し内容

【ソーシャルメディア利用に関するもの】(2013年1月)

#### コンプライアンス上の留意点として

- ☑ 発信した情報が短期間で広範囲に広まる恐れがあること
- ☑ 勤務先に関する情報は、たとえ個人的見解であっても、会社見解と捉えられる可能性があること を記載

#### 具体的な問題行為の事例として

- ☑ 法律や社内規定で禁止されている事項を発信すること
- ☑ 基本的人権やプライバシーの侵害に当たる投稿をすること などを記載

社会環境が日々変化し、人それぞれの価値観も多様な世の中では、従業員一人ひとりが、「社会から期待されていることは何か」「いま取り組まなければならないことは何か」を常に考える「自律思考」を持つことが大切だと思っています。

しかし、それ以上に大切なことは、考えたことを行動に移し、誰もが気づいている職場の「ちょっとおかしいこと」に自分で触れる勇気を持つことです。研修などで気づいたことを声に出して話題にし、仲間を巻き込んで行動を起こす。そんな勇気を与えるきっかけとなる研修に、今年度も取り組んでいきます。

職場のおかしいことに対して、「仲間を巻き込みながら行動できる」そんな勇気を与える研修を行いたいと思っています。

鹿児島支社  
コンプライアンス支社所管エリア担当

くもと まさる  
隈元 勝

九州電力 社員の思い





# CSR報告書2012アンケート結果

当社では、CSR報告書アンケート調査を通じ、皆さまからいただいた「声」を事業活動にとり入れています。

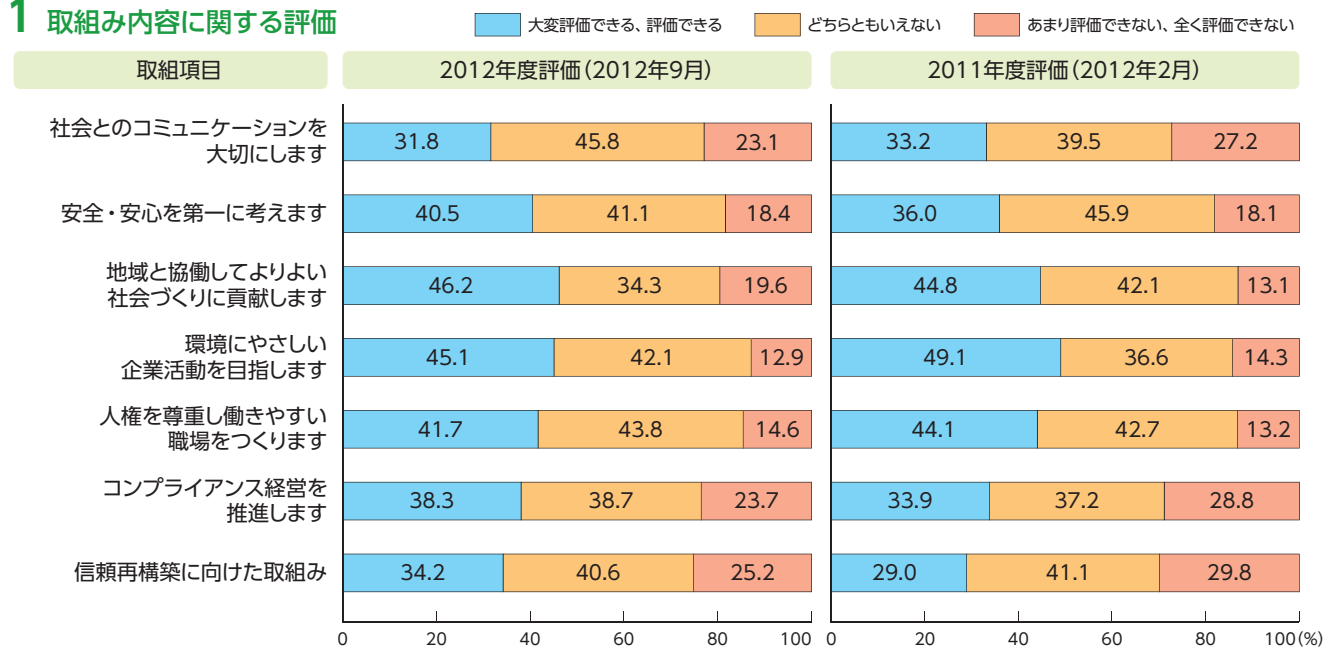
2012年9月に行ったアンケート結果では、「どちらとも言えない」との回答が多く、2011年度から大きな改善は見られませんでした。また、当社への厳しいご意見を数多くいただきました。

このアンケート結果を踏まえ、今後ともCSRの取組みを更に充実させていきます。今回も、アンケートを添付しておりますので、皆さまの「声」をお聴かせください。

## ■アンケート概要

調査期間：2012年9月11日(火)～9月18日(火) 件数:1,547件

### 1 取組み内容に関する評価



### 2 当社の事業活動に対する主なご意見と当社の対応状況

福島第一原子力発電所のような事故が二度と起こらないよう安全対策や自然災害への対策を徹底してほしい。(30代、男性)	➡	福島第一原子力発電所事故を踏まえ、想定を超える大きな津波への対策はもちろんのこと、万一の場合でも安全に対応できるよう、幾重もの安全対策を行っています。
再生可能エネルギーの取組みに期待しています。原発に頼らない世界を次の未来の子供達に見せてやりたいです。そのためにも九電の力は必須だと思います。応援しています。(30代、女性)	➡	九州電力では、太陽光・風力・地熱・バイオマスなど、再生可能エネルギーの積極的な開発・導入を進めています。今後の国のエネルギー政策見直しの動向等を踏まえ、バランスのとれた電源開発を検討していきます。
現場の社員がどれだけ真面目に仕事をしていても、経営層の意識が変わらなければ、信頼関係は決して築けない。(20代、男性)	➡	社会情勢の変化に対する感度を高め、これからの社会ニーズに新たな発想でチャレンジし、自ら変わることができる企業を目指し、経営層を含め、全社一体となった組織風土改革に取り組んでいます。

# 社外の方からの評価

## 第三者意見

「CSR報告書2013」(当社ホームページで公開)に対する意見

### 電気料金の値上げと経営の効率化

電気料金は、企業等について本年4月以降平均11.94%、家庭について5月以降平均6.23%の値上げがそれぞれ実施されました。各企業はこの値上げ分を企業努力によって吸収せざるを得ないのが現実ですし、地方自治体も予算のやりくりや契約の見直しによって対応する考えです。

こうした地域の状況に照らし、九電としても経営の徹底した効率化に努めていただきたいと思います。CSR報告書では、今後3年間の効率化計画(平均1,400億円規模)が示されていますが、これらが確実に実行されることを期待します。

### 原発の再稼働と“選ばれる企業”を目指して

トップメッセージで原子力発電所の早期の再稼働について言及している点、及び消費者によって“選ばれるしなやかで強い企業”を目指すことを宣言している点が注目されます。

前者に関連して、特集1『原子力発電所の安全・安心への取組み』などで詳しく説明されています。本年7月18日まで新「規制基準」(原子力規制委員会)が施行されるのを受け、九電は第一ステップとして川内原発1、2号機の審査を速やかに申請する旨の報道に接しました。地方自治体による「地域防災計画」(原子力災害編)の整備も必要ですし、とりわけ発電所から出る放射性廃棄物は果たして管理・処理できるものであるかについての疑念から、再稼働に反対・慎重の論議があることも確かです。

昨年度のCSR報告書では、原子力は「もともと危険なもの。だからこそ、安全のため、あらゆる努力をする」という認識が示されていました。この点の再認識をベースに再稼働に反対・慎重な論議に対しても情報の提供と説明を試み、真摯に対話の接点を探っていく姿勢が大事であるように思います。

後者の“選ばれるしなやかで強い企業”を目指すという宣言は九電の望ましい将来像を表していて、興味深いものがあります。

ます。承知のように、国政レベルでは電気事業法の改正による電力システム改革、すなわち先行的な電力小売りの完全自由化、そして将来的な発送電分離の実施が俎上に載っています。今後、新電力(PPS)の供給比率は次第に高まっていくでしょう。安くて安全な電気エネルギーを選びたいという消費者の当然の願望に応えるべく、九電として2020年度には太陽光・風力の導入見通しを700万kWに再設定し、6月には平治岳地熱発電の可能性を探る地表調査を開始することなどが報じられています。

この宣言は九電の将来像を端的に語ったものですが、その具体的取組みは今後における全社挙げての課題でありますし、次年度以降のCSR報告書ではこの観点を大きな柱としてまとめ上げていく必要があるように思います。

### CSR行動原則の設定

本年度のCSR行動計画は昨年度の実施状況とステークホルダーの意見を踏まえつつ策定され、項目ごとにPDCAサイクルを推進していこうとする意欲が伝わってきます。まずは、この点を評価したいと思います。

こうしたPDCAサイクルの推進のためには、九電にとってCSRとは何かという点について、より明確にしておく必要があります。例えば、CSRの取組みを具体的に展開するうえでの行動原則を策定し、全社員が共有する規範としておくことも一つの方法だと思います。



九州国際大学 客員教授・(前)学長  
厚生労働省 福岡労働局 参与

ごとう かつき  
後藤 勝喜氏

## 第三者意見を受けて

CSR報告書に記載した内容の信頼性を高めるため、昨年引き続き、九州国際大学の後藤教授に客観的な立場からの評価をお願いしました。

ご意見をいただいた「経営の効率化」や、「原子力発電所の再稼働に向けた取組み」につきましては、中期経営方針に掲げる重点的な取組みとして、しっかりと実践してまいります。

また、当社では、コンプライアンス経営の観点から「九州電力グループ行動憲章」を定めています。この憲章は、CSRの観点とほぼ重なる内容を含みますので、この憲章に基づく実践の中でPDCAをまわし、充実を図ってまいります。

これらの取組みを着実に実施し、ステークホルダーの皆さまから信頼され、選ばれる企業を目指してまいります。



九州電力株式会社  
代表取締役副社長 CSR担当

ちんぜい まさなお  
鎮西 正直

# “伝わる”CSRダイジェストのための意見交換会

読者に“伝わる”CSRダイジェストとするために、読者の目線を取り入れることを目的とした、学生の方々と意見交換を行いました。

- 【実施時期】 2013年4月～5月
- 【参加いただいた方】 九州大学 統合新領域学府  
ユーザー感性学専攻の大学院生15名
- 【ファシリテーター】 九州大学 専任講師 田北 雅裕 氏



## 意見交換会での主な指摘

- ◆ 見出しや図表をただ見ただけで、内容が理解できるように工夫してほしい
- ◆ 記載内容は全般的な話ではなく、部分的であっても、具体的な事例で説明された方が分かりやすい
- ◆ 専門用語はなるべく使わず、やむを得ない場合は、当該ページに注釈をつけてほしい
- ◆ フォントや行間にメリハリをつけた方が、単調にならなくていい
- ◆ 各ページごとにテーマカラーを決めて、同系色で統一してほしい など

## 今回の意見交換会を通じて

今回は、見た目の分かりやすさだけでなく、学生と九電社員が「伝えたい思い」や「伝わらない思い」を正直に交わし、深く対話できたことに大きな意味があったと思います。学生も九電社員も、その一人ひとりが、九州という同じまちに生きる「市民」です。その事実を互いに受け入れ、正直に気持ちを交わし、対話を重ねていく。そういう機会を継続し、発せられた声に互いが応じながら、次の世代へ希望を託すこと。それが今と共に生きる「市民」としてのぼくらが持つ、当然の責任だと思えます。

今後も、九州電力には信頼を築く挑戦を貫いてほしい。そして、ぼくらのまちである九州の未来に、一緒に明かりを灯していきたいです。



ファシリテーター [進行役]  
九州大学 統合新領域学府  
ユーザー感性学専攻 専任講師  
たきた まさひろ  
田北 雅裕 氏

### Q 参加する前の九州電力に対する印象は？

- ◆ お役所的で堅いイメージ
- ◆ 閉鎖的で近寄りにくい

### Q 参加した後の九州電力に対する印象は？

- ◆ 社員の顔が見えて、親しみを持てるようになった
- ◆ 話してみたら、ちゃんと話分かる人だった
- ◆ 社員の方々の、仕事に対する熱い思いが伝わってきた

### Q そのほか感じた感想は？

- ◆ 形式だけの意見交換ではなく、本気で誌面を分かりやすくしたいという意思を感じた
- ◆ “想いを伝える”ことの大切さを感じた
- ◆ 社員の方々が、本気で“変わろう”“会社を変えよう”としていることが伝わった

## 参加した学生の声

## 学生の方々からの意見を受けて

「CSR報告書を分かりやすくしたい」という思いから、報告書の作成過程において、初めてこのような意見交換会を行いました。学生の方々からは、ただ分かりにくい箇所を指摘するだけでなく、「どうしたら分かりやすい表現やデザインになるか」という具体的なアイデアを活発に出していただき、読者の方々に“伝わる”報告書にすることができたのではないかと感じています。

今回いただいたご意見は、今回だけに留まらず、当社の情報全般においても活用し、お客さまに“伝わる”情報発信を心がけていきたいと考えています。



九州大学のみなさんと



# 九州電力グループのご紹介

九州電力グループは、いつの時代においても、お客さまに電力・エネルギーをしっかりお届けするとともに、社会・生活の質を高めるサービスを提供することを通じ、快適で環境にやさしい持続可能な社会の創造に貢献することを基本理念としています。

(2013年5月末)

## 九州におけるエネルギー事業

### 【電気の卸供給事業】

戸畑共同火力(株)	(株)キューデン・エコソル
大分共同火力(株)	長島ウインドヒル(株)
大分エル・エヌ・ジー(株)	(株)福岡エネルギーサービス
北九州エル・エヌ・ジー(株)	みやざきバイオマスリサイクル(株)
西日本環境エネルギー(株)	他9社

### 【設備の建設保守】

九州林産(株)  
 (株)九電ハイテック  
 西日本プラント工業(株)  
 九電産業(株)  
 西日本技術開発(株)  
 (株)九電工

他7社

### 【資機材等の調達】

九電テクノシステムズ(株)  
 西日本空輸(株)  
 九州高圧コンクリート工業(株)  
 光洋電器工業(株)

他4社

## 海外におけるエネルギー事業

(株)キューデン・インターナショナル  
 キューデン・インターナショナル・ネザランド  
 九電新桃投資股份有限公司  
 キュウシュウ・エレクトリック・オーストラリア社  
 キュウシュウ・エレクトリック・ウィットストーン社  
 キューデン・サルーラ

他12社

## 情報通信事業

九州通信ネットワーク(株)  
 (株)キューデンインフォコム  
 ニシム電子工業(株)  
 九電ビジネスソリューションズ(株) 他3社

## 環境・リサイクル事業

(株)ジェイ・リライツ  
 九州環境マネジメント(株)

## 生活サービス事業

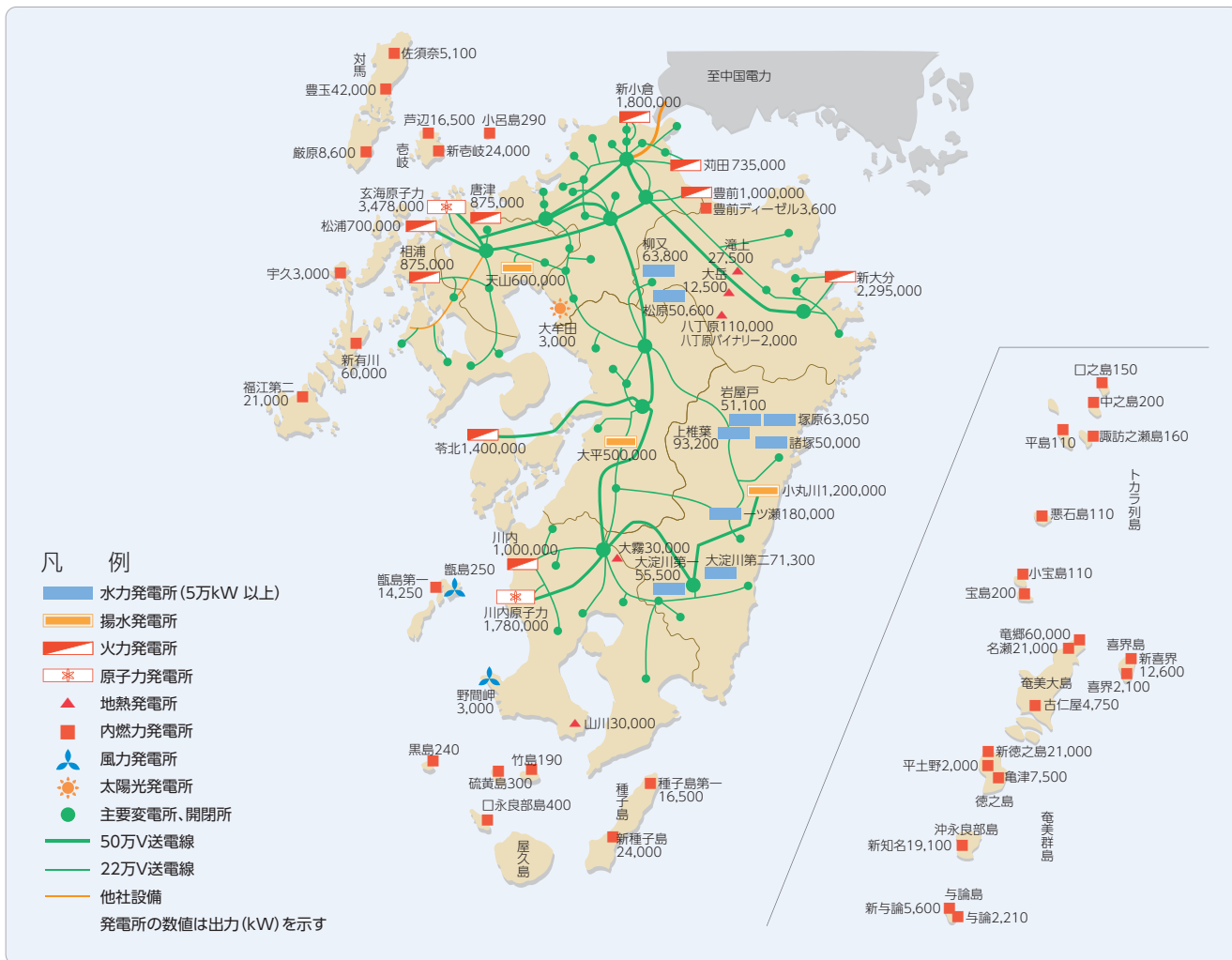
(株)電気ビル  
 (株)キャピタル・キューデン  
 (株)キューデン・グッドライフ  
 (株)九電ビジネスフロント  
 九電不動産(株)  
 (株)九電オフィスパートナー  
 九州メンテナンス(株)

他13社



# 九州電力の概要

## ▼主要供給設備(2013年3月末)



(2013年3月末現在)

設立年月日	1951年5月1日	供給設備	
資本金	2,373億円	水力発電	142か所 358.2万kW
株主数	174,293名	火力発電	9か所 1,068.0万kW
供給地域	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、 熊本県、宮崎県、鹿児島県	地熱発電 (バイナリー含む)	6か所 21.2万kW
		内燃力発電 (ガスタービン含む)	34か所 39.9万kW
		原子力発電	2か所 525.8万kW
		風力発電	2か所 0.3万kW
		太陽光発電	1か所 0.3万kW
売上高	14,488億円	自社計	196か所 2,013.7万kW
総資産額	42,017億円	他社計	— 299.6万kW
従業員数	13,102名	発電設備合計	— 2,313.2万kW
		変電所	589か所 7,050.5万kVA
		送電線路こう長	10,646km
		配電線路こう長	137,965km
		お客さま数	
		電灯	770万口
		電力	93万口
		合計	863万口

(注)供給設備の数値については、四捨五入のため合計値が合わないことがある。





ずっと先まで、明るくしたい。



Kyushu Environmental Management Corporation  
九州電力グループで発生・回収した古紙を利用し、再生した用紙を活用しています。



100% RECYCLED PAPER  
古紙/パルプ配合率100%  
再生紙を使用



印刷用インキは環境にやさしい  
植物油インキを使用しています。

■作成部署・お問い合わせ先

九州電力株式会社 地域共生本部 総務計画・CSRグループ  
〒810-8720 福岡市中央区渡辺通2-1-82  
TEL: 092-726-1596 FAX: 092-711-0357  
E-mail: csr@kyuden.co.jp